

一期保険事務所

委任型募集人の手数料を1分で算出

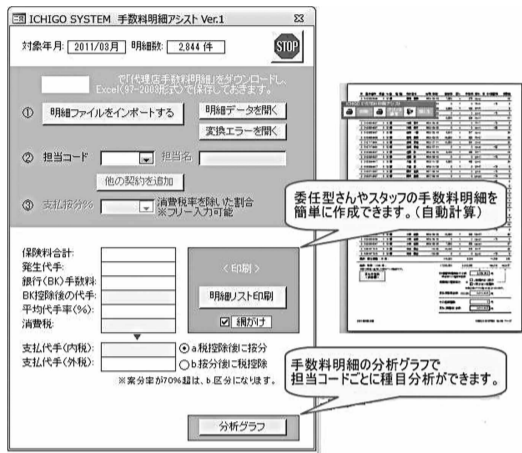
「手数料明細アシスト」開発

大型化に伴い、事務作業の増加に頭を悩ませる代理店は多い。特に廃業代理店の吸収や合併で規模を拡大したところでは、委任型募集人の代理店手数料を算出する際に案分計算を必要とするケースもあり、一層負担が掛かっている。

専用のシステムもあるが、顧客管理などいくつかの機能が組み合わさった高価なものが大半だ。損保系専属代理店の㈱一期保険事務所(東京都板橋区、石井裕二社長)では、このほど「手数料明細アシスト」を開発。フリーソフトとして同社ホームページから配布している。このソフトで、これまで3日かかっていた募集人全員の分の手数料明細の作成が1分で可能となる。

「ごめん、次からは受けた契約については、気を付ける」では済まされず、廃業した代理店へ手数料を払い戻すためのミスも発生していた。手数料計算を間違えた人にとつては、たまたまのものではない。石井社長は「ソフト開発のきっかけを語る。募集人ごとに代理店手数料を算出する際、通常はあらかじめ各人へ付与した計上コードごとに代勘精算書が発行されるため、コードごとの合計金額が各人の代理店手数料算出の根拠となる。同様に、廃業代理店から引き

また、多くの保険会社では現在も紙ベースで代勘精算書を送付している



「手数料明細アシスト」は数回の操作でレポートが完成する(同社資料から抜粋)

ケースが多く、明細の表

記では同一契約者でも種目によって漢字表記とカタカナ表記が混在していたり、口座振替手数料などの諸経費が同時に表記されるなど名寄せに苦労

するものもある。

同社の代申会社では、代勘精算書はデータ送付となっていたが、廃業代理店の契約については事務担当者が1契約ごとに振り分けて計算してい



先ごろ金沢からも視察団が同社を訪問した

た。そつした中で事件は発生した。ある募集人の手数料計算を誤ってしまったのだ。「苦労して手数料計算している事務担当の姿を見て、大変な作業であることはこれまでも認識していたが、誤るとは夢にも思っていなかった」と石井社長。二度と同じ過ちを犯さないた

フリーソフトで提供

ソフトは、代申会社が提供する代理店システムから手数料明細をダウンロードしてエクセル形式で取り込むことで、代理

店の実情に合わせた手数料明細を瞬時に作成できるもの。グラフ作成機能も備え、担当者別・種目別の棒グラフが簡単に作成できるようにした。また、担当者ごとに短評をつけられる機能なども備えた。

マイクロソフト社の「アクセス」をベースに作られており、ファイルサイズも625キバイトと非常に軽い。今回、フリーソフトとして提供する理由について石井社長は「多くの方に利用してもらい、意見を挙げてもらうことで今後の改良につなげたいと考えた」と語る。現在、代申会社1社のみの対応となっているが「エクセル形式で手数料明細が用意できれば、他社のものでも対応できるケースはある」と見ている」と述べ

石井社長は、代理店研修生を経て1992年に同社を創業。これまでも日ごろの代理店経営のかわら、更改や事故対応などの事務作業を簡便化するためのソフトを開発してきた。それらは現在「ICHIGO SYSTEM」としてパッケージ化され、全国の20代理店が利用している。

現在も、損保を中心に保険会社主導で代理店合併が進められており、大型化するケースは多い。その際、その後発生した課題について、代理店自らを取り組むことはさらなる成長に向けて重要なことだ。一方で、合併を主導した保険会社側も、課題解決に向けてさらに支援することが合併を主導した責務として必要といえるのではないだろうか。